

ひきこもり支援における 行政機関と家族会の連携状況

宮崎大学教育学部
境 泉 洋

調査概要

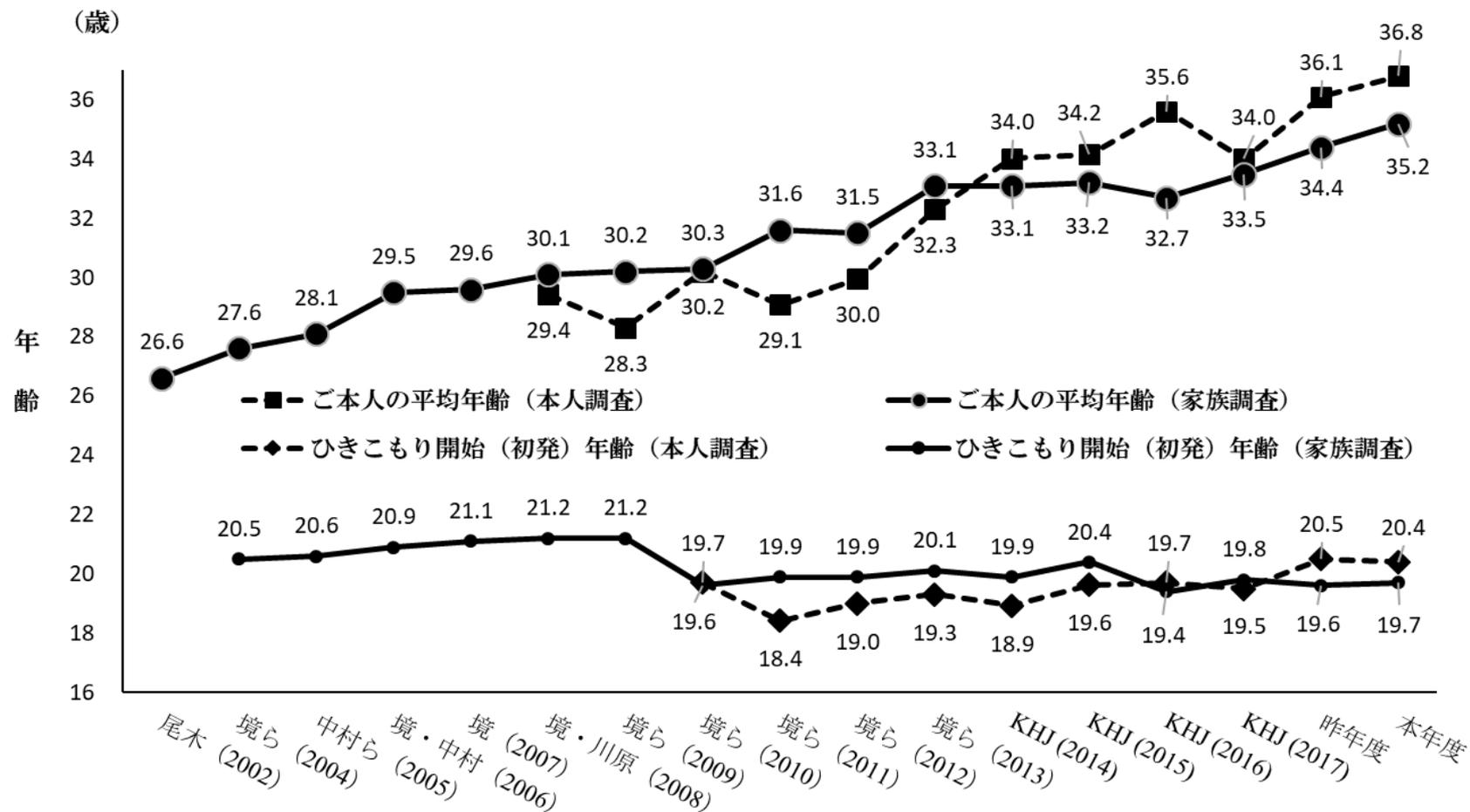
- KHJ調査

KHJ全国ひきこもり家族会連合会の支部が平成30年11月～平成31年1月に開催した月例会において実施。ひきこもり経験者52名（以下、KHJ本人調査）、ひきこもり経験者の家族304名（以下、KHJ家族調査）から回答が得られた。

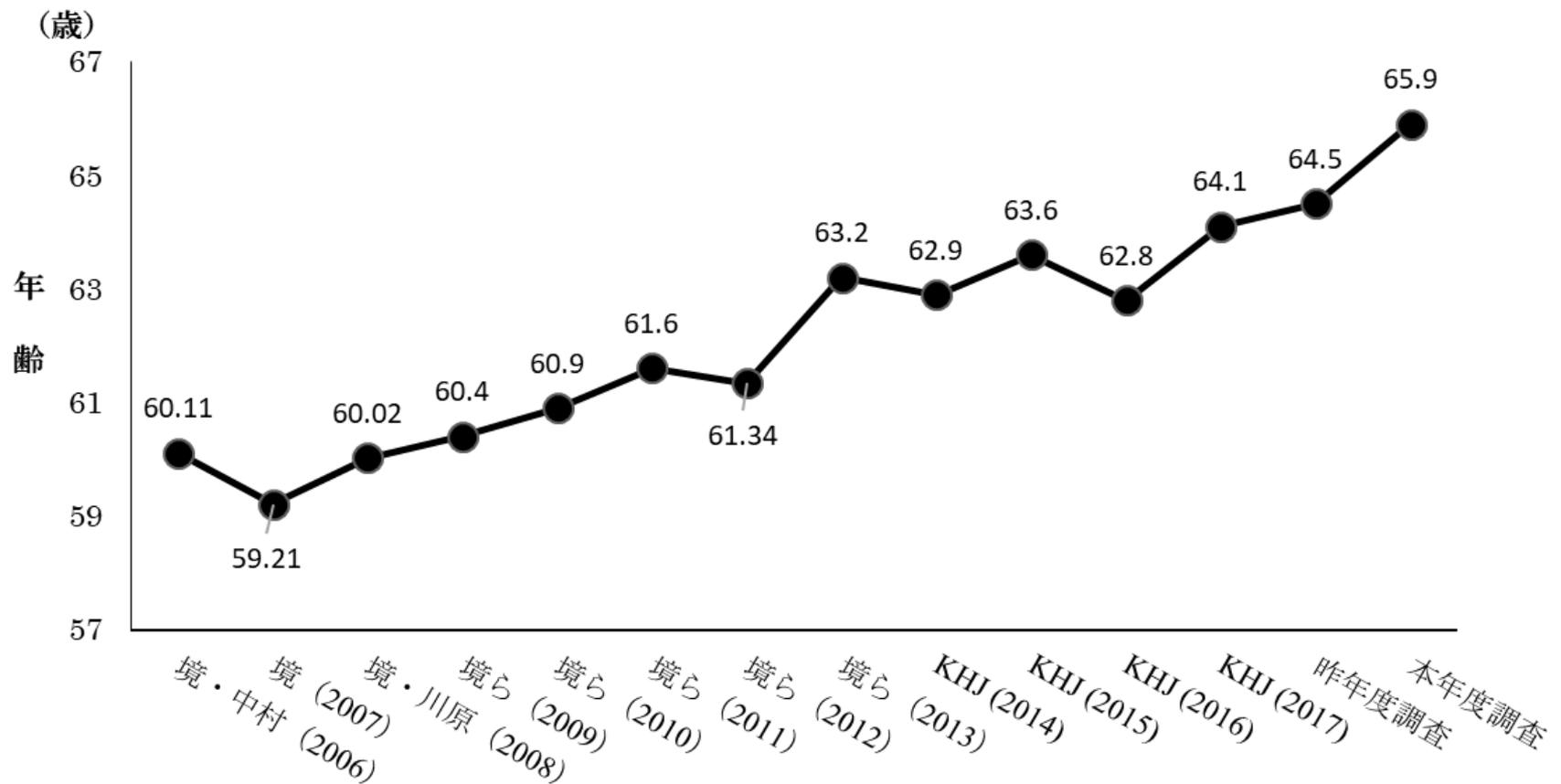
- 行政調査

ひきこもり地域支援センター75カ所、並びに生活困窮者自立相談支援窓口1332カ所を対象に平成30年12月に実施。602機関（回答率42.8%）から回答が得られた。

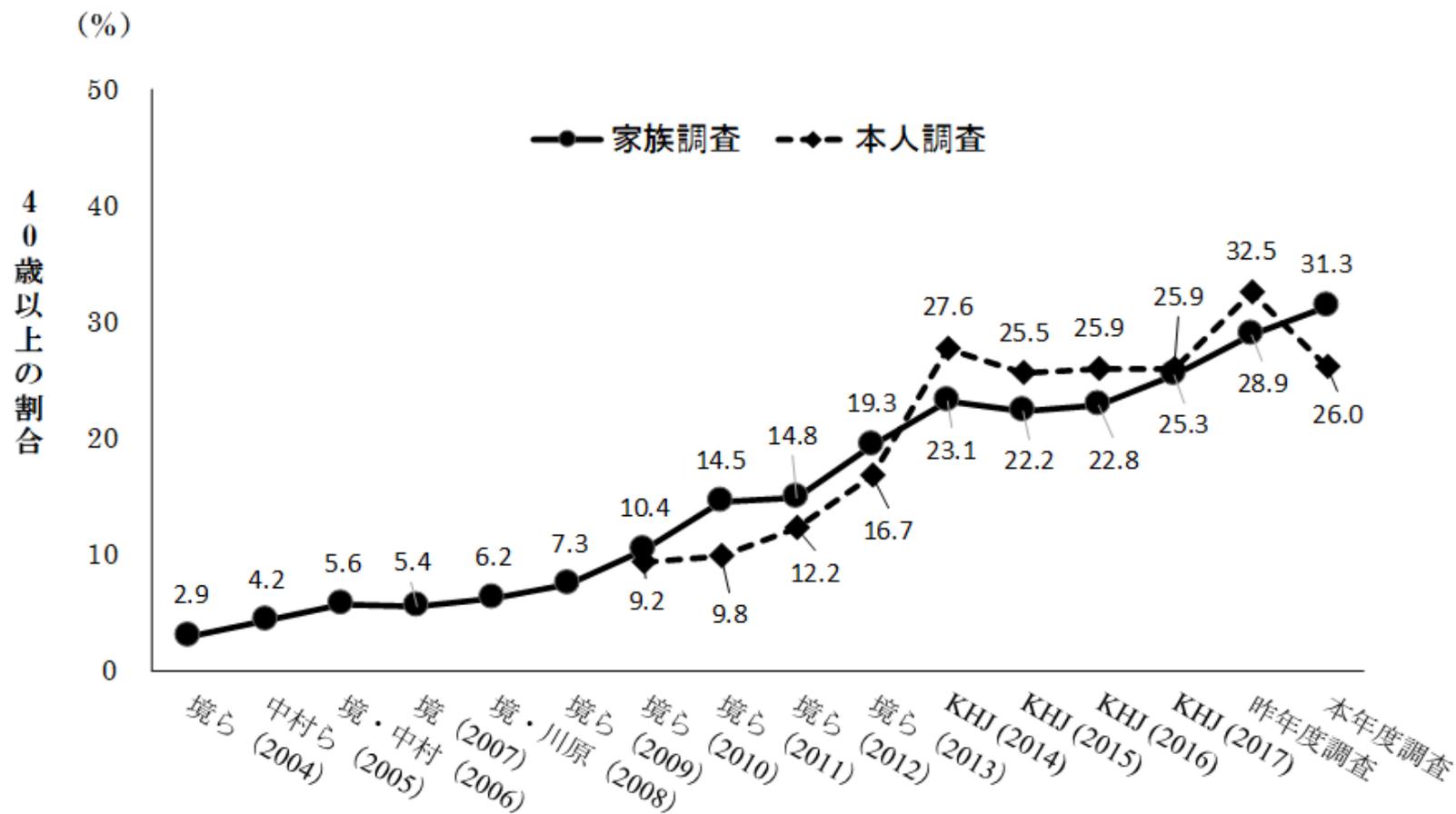
KHJ調査： ひきこもり本人の年齢と初発年齢の推移



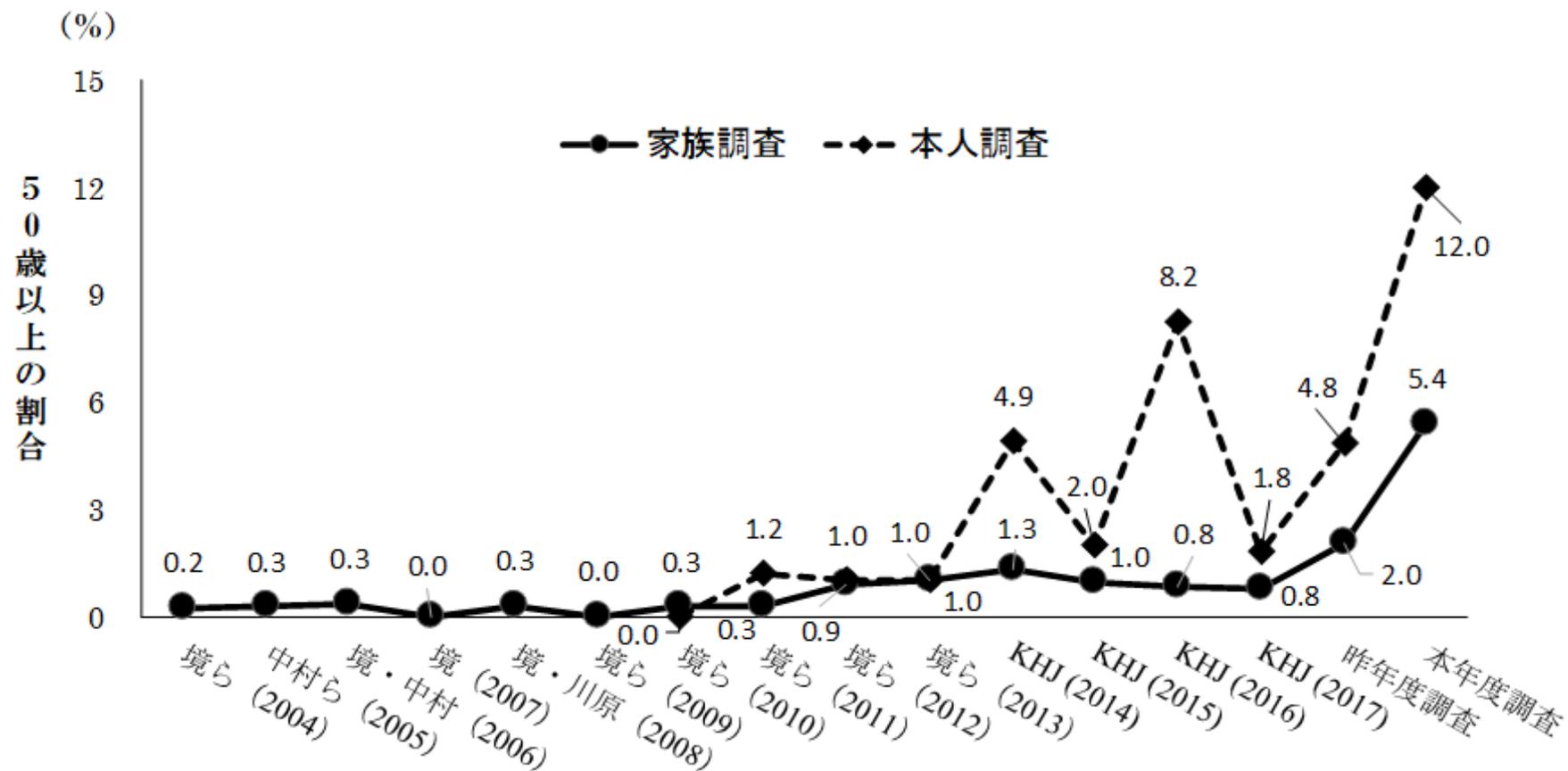
KHJ調査： 親の年齢の推移



KHJ調査：（追加資料） 40歳以上のひきこもり本人の割合

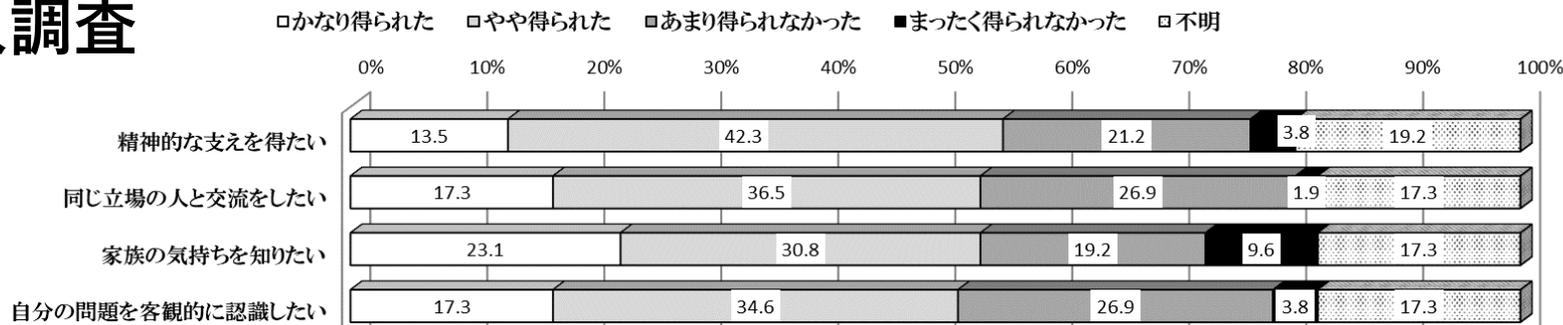


KHJ調査：（追加資料） 50歳以上のひきこもり本人の割合

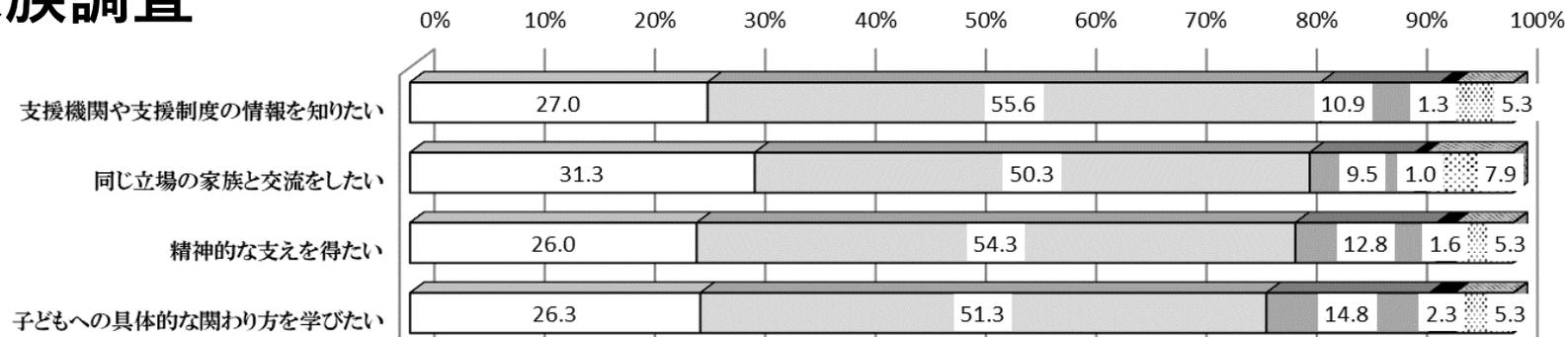


KHJ調査： 家族会で得られたこと

本人調査

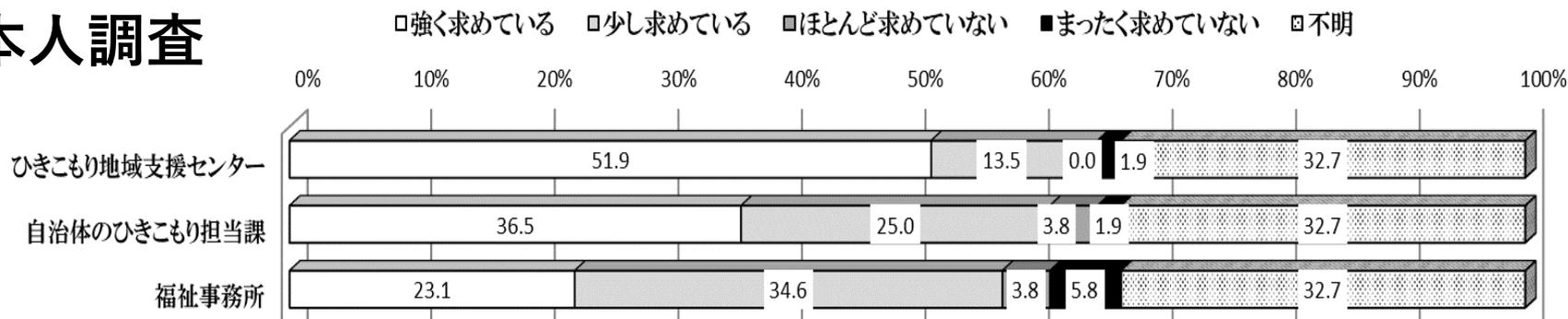


家族調査

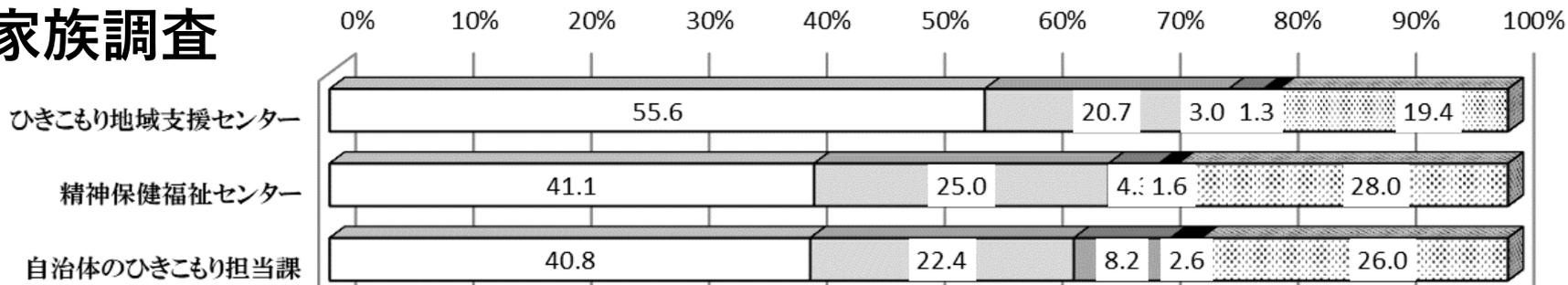


KHJ調査： 家族会と連携して欲しい行政機関

本人調査



家族調査



KHJ調査：

家族会と行政にどのような連携を求めるか？

本人調査

- **実態把握**と対策の役割分担
- **情報**交換と共有
- 地域による安定的な支援、居場所
- 法的支援**制度**
- **経済**的支援
- ハローワークとの連携
- 医療福祉従事者や研究機関との連携

家族調査

- **実態把握**
- 支援体制の整備
- **情報**発信
- **経済**的、物質的支援
- 行政と家族会との関わり、更なる支援への期待
- **制度**の整備
- 各方面との連携
- 仕組みの整備
- 社会への啓蒙
- 8050問題、高齢化、親亡き後

KHJ調査：

家族会と行政が連携する上での障害

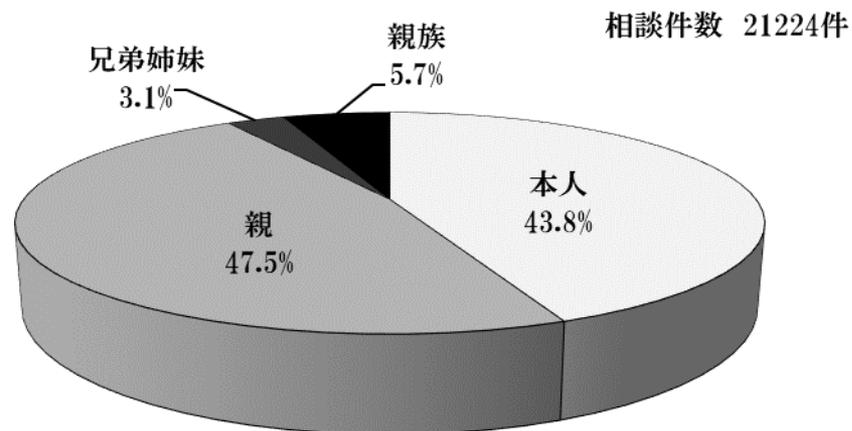
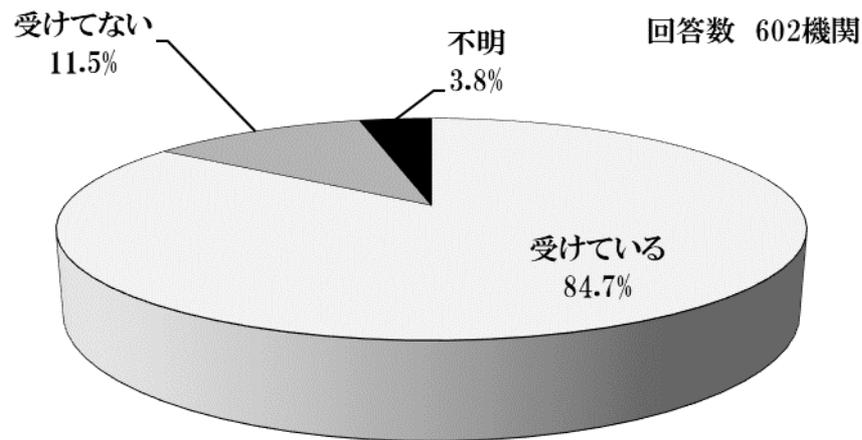
本人調査

- 支援者と会うことが不安
- 問題共有や認識のずれ
- 担当者の異動や不足
- 寄り添いや傾聴
- 財政的な問題

家族調査

- 無理解
- 体制の問題
- 行政の態度
- 相談窓口の利用しにくさ
- 本人、家族自身の問題
- 連携の問題
- 人事異動
- 制度の問題
- 個人情報の問題
- 障害を感じていない

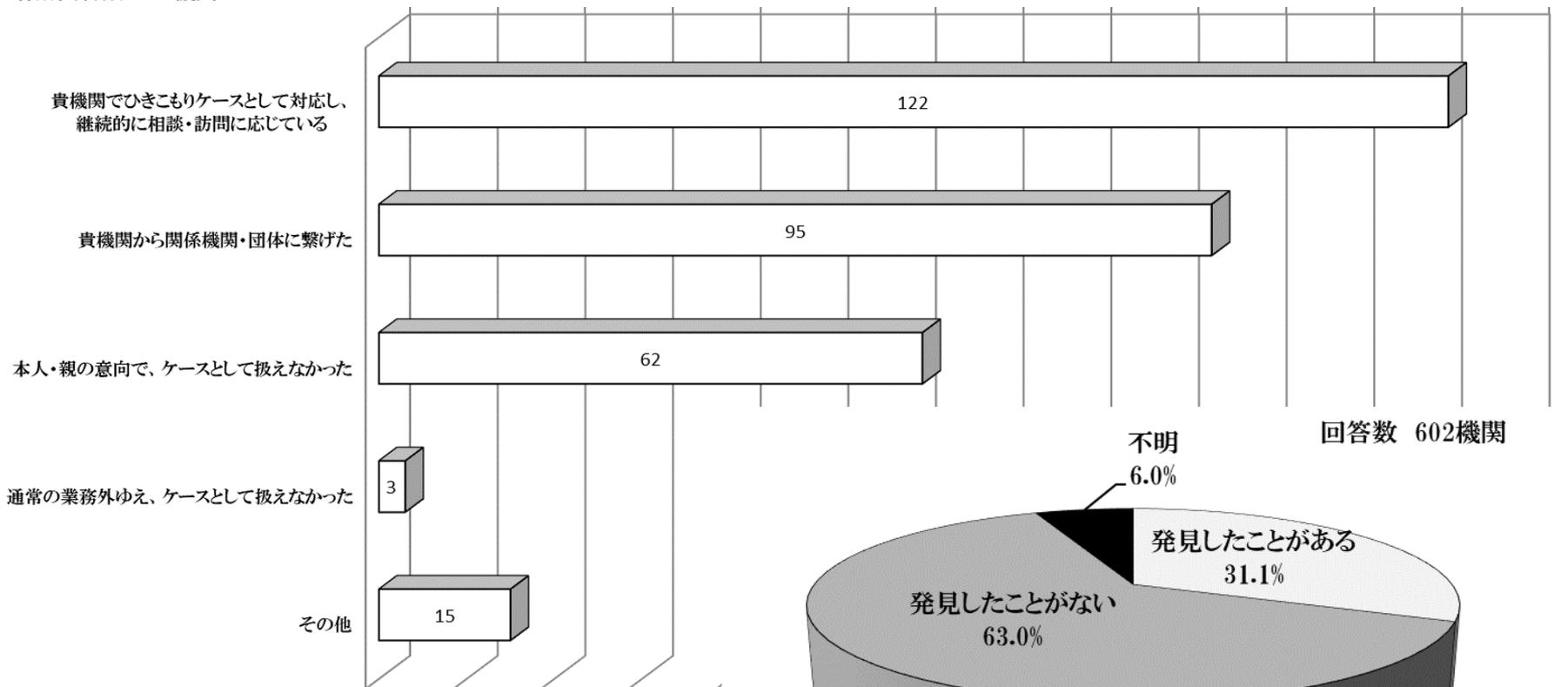
行政調査： ひきこもり相談対応状況



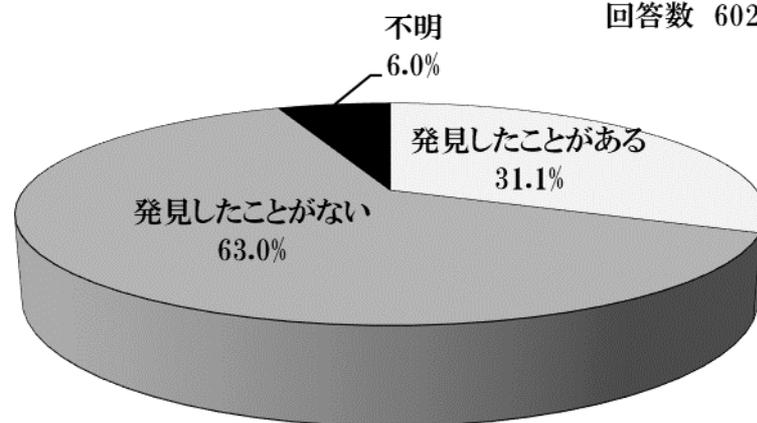
行政調査： ひきこもりニーズの発見

有効回答数 187機関

件数(件) 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120 130



回答数 602機関

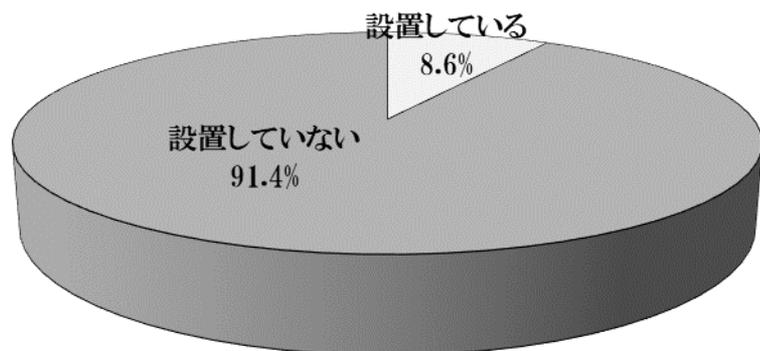


行政調査： 発見・介入が困難な理由

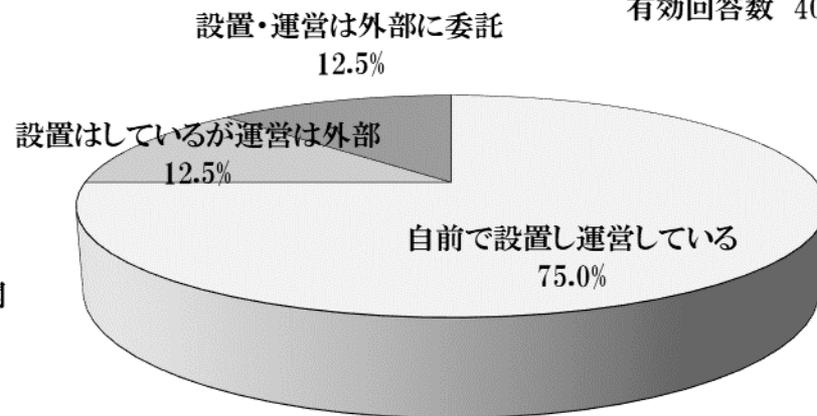
- 家族の支援に対する認識
- 本人の支援に対する認識
- 本人・家族の支援に対する認識
- 本人・家族の関係
- 支援方法・方針
- 支援機関の体制
- 状況把握の難しさ
- ひきこもり対応の専門性の問題
- 本人・家族の精神疾患・発達障害、精神的不安定などの問題
- 長期化・高齢化の問題
- 支援対象者の孤立・閉鎖的な問題
- 支援機関の連携
- 問題の複雑化
- 人員・時間・経済的な問題
- プライバシーの問題
- 社会資源
- 就労支援
- 制度

行政調査： ひきこもり家族会の設置状況

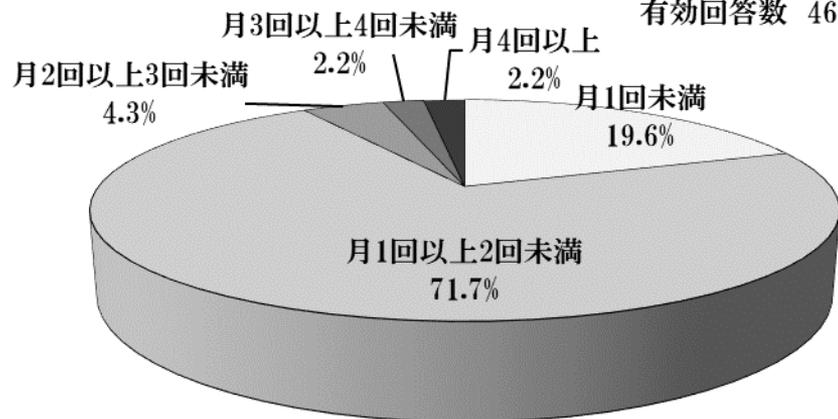
回答数 602機関



有効回答数 40機関



有効回答数 46機関



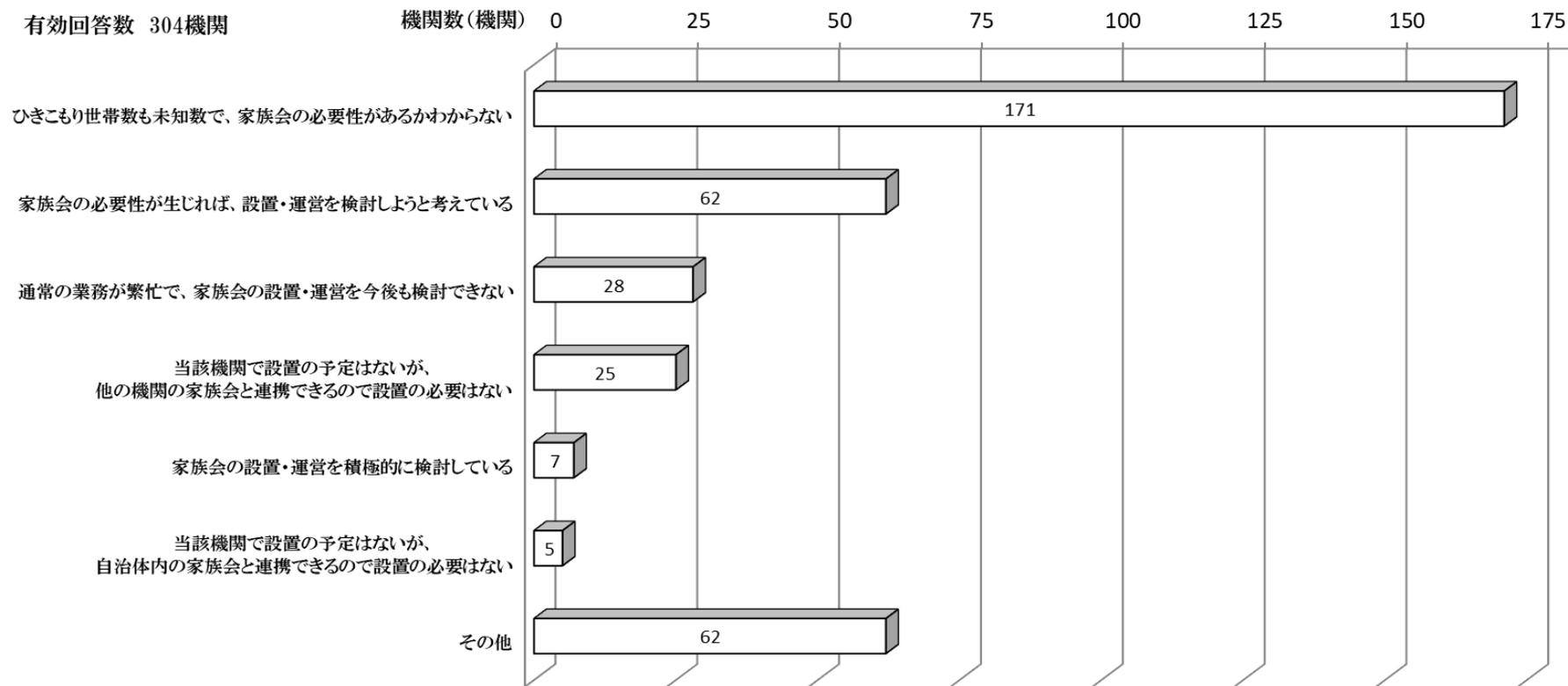
行政調査： 家族会と連携するメリット

- 情報提供
- 困りごと・悩みごとの共有
- 実情の把握
- 連携・ネットワーク
- 家族・本人の学び、気づき
- 孤独感の解消
- 支援への効果
- 情報交換
- 活用・設置
- 課題・展望
- 視野・選択肢の拡大
- 心的負担の軽減・回復
- 支援者の学び
- 支援機関との違い
- 関係構築
- 家族会の機能拡充

行政調査： 家族会と連携する上での課題

- 情報提供不足
- 支援対象者の需要
- 家族会の体制
- 多様な機関との連携・協働が必要
- 支援機関からの情報提供
- 物理的な問題
- 支援体制の問題
- 機関としての立場
- 金銭的な問題
- 家族会の機能の拡充
- 社会資源

行政調査： 家族会の設置予定

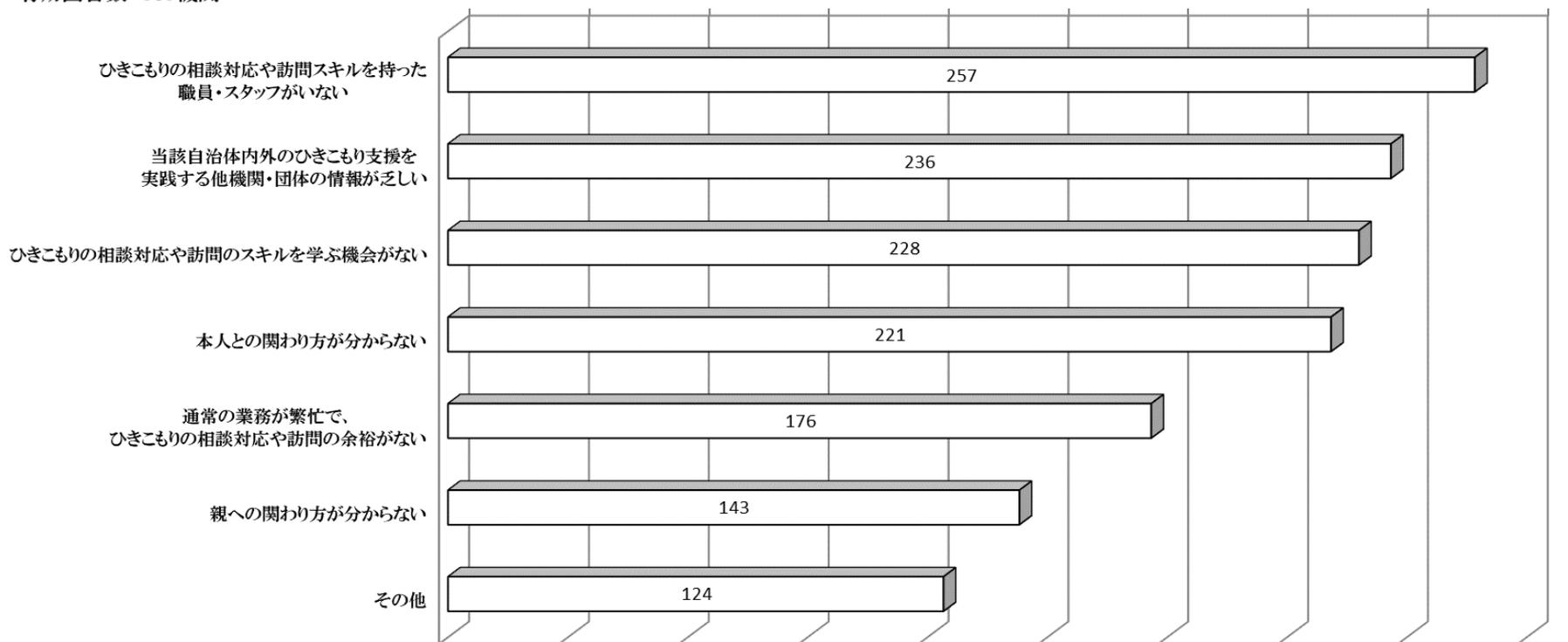


行政調査： ひきこもり対応での困難

有効回答数 539機関

機関数(機関)

30 60 90 120 150 180 210 240 270



まとめ：KHJ調査

- ひきこもり経験者の平均年齢35.2歳で過去最高を更新（昨年度調査では34.4歳）。
- **40代以上が30%。2004年の10倍に増加。**
- 家族会と行政の連携の必要性については、KHJ家族調査において93.4%、KHJ本人調査において82.7%が必要と回答。
- 家族会と連携してほしい行政機関としては、ひきこもり地域支援センターが65.4%（KHJ本人調査）、76.3%（KHJ家族調査）でトップ。
- 行政機関における実態把握を求めている。

まとめ：行政調査

- ひきこもり相談対応をしている機関が**84.7%**
- 相談対象は親が**47.5%**で最多
- 家庭訪問時にひきこもり本人を発見したことがある機関が**31.1%**存在したが、発見しても本人・親の意向でケースとして扱えなかったケースが**33.2%**に上った。
- 自治体内のひきこもり家族会を把握していない機関での設置予定については、「ひきこもり世帯数が未知数で、家族会の必要性があるかわからない」という回答が**56.3%**
- ひきこもり対応の際の困難な事項としては、「ひきこもり相談対応や訪問スキルを持った職員・スタッフがいない」という回答が**47.7%**